

令和7年度

# 学校経営方針

# 昭島市立多摩辺中学校

## 校長 堀田 典子

私たちの使命は、教育目標の達成に向けた日々の取り組みを通して、生徒一人一人が自らの興味関心に基つき、主体的に学問の素晴らしさを探求し、スポーツの楽しさを体験し、多様な表現活動を通して喜びや感動を実感できるようにすることです。また、集団活動を通して多様な他者と協働する力や責任感を育み、心身共に健康で、変化の激しい社会を生き抜くためのバランスのとれた人間形成を目指します。そのために生徒への愛情と教育への情熱をもち続け、チーム「多摩辺」として保護者や地域の方々の願いや期待に応えながら信頼される学校作り、共に学び成長できる集団作りを進めます。

### 1 教育目標

- 進んで勉強しよう
- 思いやりのある人になろう
- 進んで心身をきたえよう

### 2 目指す学校像

- (1) 生徒が安全で安心して生活できる学校
- (2) 将来の夢や目標の実現に向けて生き生きと生活できる学校
- (3) 伝統と創造を重んじ、生徒・保護者・地域が共に支え合う学校

### 3 目指す生徒像

- (1) 探求心・創造力にあふれ、生涯にわたって学び続ける生徒
- (2) 多様性を認め、正義を大切にできる生徒
- (3) 心身の健康を目指し、己を鍛える生徒

### 4 目指す教師像

- (1) 生徒一人一人を大切に、厳しさと愛情を注げる教師
- (2) 専門性・指導力を磨き合い、組織として高め合う教師
- (3) 豊かな人間性を備え、生徒・保護者・地域から信頼される教師

### 5 学校経営の基本的な考えと取り組み

#### (1) 一人一人の可能性を伸ばす確かな学力の形成

個別最適化された学びと協働的な学びを両輪として、生徒一人一人の基礎・基本の確実な定着を図り、主体的に学びに向かう力、多様な他者と協働して課題を解決する力、そして、生涯にわたって学び続ける力を育成する。

- ① 数学・英語において、生徒の習熟度に応じた指導や少人数による授業を展開し、一人一人のニーズに応じた学びを充実させる。
- ② 年2回の授業評価を行い、指導法の工夫・改善を図ることで授業の質の向上を図る。
- ③ 質問教室・補習教室等の学習サポート体制を充実させると共に、学習コンクール等の取組を計画的に実施し、生徒の学習意欲を引き出し、学びへの挑戦を促す。
- ④ 家庭学習の重要性を認識させ、各教科において、意図的・計画的に課題を設定することで学習内容の定着を図り、主体的な学びを促す。

- ⑤ 朝学活前の10分間を活用した朝読書を実施し、生徒の豊かな感性や情緒、読書習慣を育む。

## (2) 生徒指導の組織的な対応による規範意識の育成

学校として、いじめ、暴力、人権を侵害する行為を決して許さず、毅然とした指導を徹底する。また、教育相談的な視点も取り入れ、生徒一人一人の状況に寄り添った支援を行い、社会の一員としての自覚と責任感、そして、他者を尊重する心を育む。

- ① 生徒指導に関する基本方針と具体的な指導内容については、教員間で共通理解を図り、それぞれの専門性を活かした組織的な指導を行う。
- ② 1年生の全員面接や三者面談を実施し、生徒一人一人の個性や抱える課題を早期に把握することに努める。
- ③ 生徒が安心して相談できる関係性を築き、小さなSOSも見逃さない学校づくりを推進する。いじめの疑いがある状況をキャッチした場合、速やかに情報を共有し、組織的に対応していく。(別紙、いじめ防止基本方針参照)
- ④ 学級満足度調査の分析し、生徒のニーズを踏まえた魅力ある学級経営を展開することで、問題行動の予防・早期発見を図る。
- ⑤ 特別支援教育コーディネーターを中心に配慮を要する生徒に関する情報を共有し、教職員全体で共通理解に基づいた支援を行う。また、特別な支援を必要とする生徒や精神的な不安定さを抱える生徒への適切な対応について、研修を通して教職員の専門性を高める。
- ⑥ 不登校巡回教員は、不登校対応コーディネーター(CO)やスクールカウンセラー(SC)との連携を軸に担任、養護教諭やソーシャルワーカー(SSW)とも協力し、具体的な支援方針や役割分担を協議した上で、生徒のニーズや保護者の願いに応じた登校支援を行っていく。  
支援員、各学年、担任が連携し、それぞれの専門性を活かしたきめ細やかな登校支援を行う。
- ⑦ 昭島市教育委員会、昭島警察署、児童相談所、子ども家庭支援センター、保護司、民生児童委員や医療機関等、関係機関との緊密な連携を図り、生徒の健全育成に努める。

## (3) 豊かな心とたくましい身体の育成

道徳教育の充実及び日々の多様な人々との関りや豊かな体験を通して、自己有用感を高め、他者を思いやる心、勤労の尊さ、責任感、公正さ等、社会性を育む上で大切な人間性を豊かに育む。また、健康で活力ある生活を送るための基礎となる体力と健康意識を培う。

- ① 職場体験や奉仕活動、地域連携活動等を展開し、生徒が主体的に他者と協力して活動に取り組み、達成感や自己有用感を味わえる機会を創出する。
- ② 生徒会活動、学年・学級活動において、生徒一人一人の意見や個性を尊重し、主体的な参加を促すことで自治の精神と協調性を育む。
- ③ 特別支援学級と通常の学級との交流活動を積極的に推進し、互いの違いを理解し、尊重し合う心、偏見や差別意識のない豊かな人間性を育む。
- ④ 校内美化活動や地域におけるボランティア活動への生徒の主体的な参加を促し、地域社会への貢献意識と感謝の気持ちを育てる。
- ⑤ 感謝の気持ちを伝えあう「勇気づけ言葉」等のコミュニケーションを意識的に実践し、良好な人間関係と自己肯定感を育む。
- ⑥ 保健体育の授業や学校行事において、生徒が主体的に継続して取り組める運動や体力づくりを工夫し、健康的な生活を送るための基礎となる体力と運動習慣を育成する。

## (4) 夢を育て、進路を実現するキャリア教育の充実

全ての生徒が自らの個性や可能性に気付き、主体的に未来を設計し、社会で活躍するための力を身に付けさせる。

- ① 自己を知る学習を通して、自身の興味・関心や得意なこと、価値観等を理解すると共に多様な職業に関する情報収集や体験活動について、3年間を見通して、計画的に行う。
- ② 生まれ育った地域の文化や産業、課題などを学び、地域社会との連携を通して、探求的な学習を推

進する。

- ③ 正確で多岐にわたる進路情報を提供すると共に生徒一人一人の個性や進路希望に応じた丁寧な個別相談を行い、生徒が主体的に将来の夢や適性に合った進路を選択・決定できる力を育成する。

#### (5) 一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実

すべての子供達が共に学び、成長できるインクルーシブな学校を目指し、特別な支援を必要とする生徒に対して、教職員間の共通理解に基づき、個別のニーズに応じた細やかな支援を行う。特に発達障害等に関する理解を深め、効果的な指導方法について研修を充実させることで学校全体の専門性を高める。

- ① 障がいの状況や教育的ニーズを丁寧に把握し、個別の教育支援計画に基づいた検討・調整を行い、可能な限りの合理的配慮を提供し、柔軟な支援体制を構築する。
- ② 巡回指導教員や SC、SSW 等との情報交換を密に行い、多角的な視点から生徒一人一人の課題解決に向けた支援を強化する。
- ③ 支援委員会（校内委員会）を定期的に開催し、早期からの適切な教育的支援について検討すると共に、関係機関との連携を強化し、生徒の適正な就学と成長を支援する。
- ④ 特別支援教室と通常の学級との連携強化を図り、必要な教育支援を提供する拠点としての機能を強化する。

#### (6) 教員の指導力・資質向上を目指す校内研修の充実

授業力向上アドバイザー事業の成果を活かし、授業改善はもとより、生徒理解、特別支援教育、ICT活用等、多岐にわたるテーマで研修を実施し、教職員一人一人の専門性を高め、互いに学び合い、成長し続ける教員集団をつくる。

- ① 昨年度までの成果を継承し、生徒の探求心や思考力を高め、主体的な学びを引き出す授業づくりを目指し、計画的に研究授業や授業改善に向けた協議会を実施する。
- ② 若手教員を対象とした校内研修を実施し、主幹教諭・主任教諭をはじめとする経験豊富な教員の知識や実践、課題解決に向けたプロセス等を共有する機会を設ける。
- ③ 救命講習やエピベン講習を行い、緊急時の迅速な対応についての実践力を身に付ける。

#### (7) 安全管理と施設の環境整備の推進

生徒の安全を最優先に、予測される様々なリスクに対応できるよう、組織的な危機管理を構築し、安全教育を推進する。また、生徒が快適に学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に努める。

- ① 施設設備の定期的な安全点検を実施し、危険な箇所については迅速に改善を図る。
- ② 外部の講師を招き、薬物乱用防止や情報モラル、犯罪防止等について、社会で求められる安全に関する知識や判断力を養う機会を設ける。
- ③ 毎月、安全指導日・避難訓練を設け、事故の未然防止、災害時の避難方法や初期対応について、生徒の主体的な退避行動に繋げる指導を行う。
- ④ 清掃活動を教育活動の一環として捉え、生徒が主体的に参加することで、学校を大切にすると責任感を育み、環境美化への意識を高め、持続可能な社会の実現に向けた意識も育む。

## 6 アンケート結果等を踏まえた教育計画の改善

教員の自己評価、保護者の評価、生徒の授業評価、学校運営協議会による学校評価等を実施し、その分析結果を活かし、教育活動の改善を図る。

### (1) 生徒による授業評価アンケート

7月の結果を踏まえ、授業改善推進プランを作成・実施し、12月に検証と授業改善を実施  
「はい」の回答目標 ( )の数値は、「どちらかといえばはい」という肯定的回答を含めたもの

質問項目	到達目標	7月	12月
1 先生は、授業の目標、1時間の流れを伝えてくれますか。	80%	78.0%(95.3)	79.2%(95.9)
2 先生は、授業のまとめ、振り返りをしてくれていますか。	60%	65.3%(90.2)	64.6%(88.9)
3 先生の授業に興味・関心をもって取り組んでいますか。	70%	66.5%(91.4)	63.1%(90.8)
4 先生の授業は、わかりやすいですか。	70%	64.5%(91.0)	62.3%(89.3)
5 授業で、わかった、できたという達成感、満足感がありますか。	60%	70.6%(95.8)	69.0%(95.0)
6 先生は、生徒の「考え」「活動」「頑張り」を認めていますか。	70%	54.1%(76.9)	51.7%(76.2)
7 先生は、評価の仕方について説明してくれていますか。	60%	58.2%(75.4)	62.1%(84.0)

#### 【検証】

##### ○成果

・授業改善の結果、わかりやすく伝える点では、口頭だけではなく、資料を提示し、視覚的による工夫を加えたで、1と7の項目は7月時よりも成果を上げることができた。

・「はい」のみの回答では、到達目標に達していない項目はあったが、「どちらかといえばはい」という肯定的回答を含めると、1～5の項目は、到達目標を大きく上回る。更に授業力を高め、「はい」の項目が増えるように、各教科担当で授業改善を行っていく。

##### ○課題

・2～6の項目は、7月に比べて12月の生徒の評価が下がった。原因は、学習が進んでいくことによって、内容が難しくなるため、学習の積み重ねができていない生徒が手応えを感じにくくなっていることがうかがえる。知識を一方的に詰め込む授業ではなく、授業に興味・関心をもてる指導内容・方法の工夫や、認め励ます場面を意図的に設定した学習意欲の向上、学習内容の定着が図れる「振り返り」の工夫が今後の課題である。

・R6年度達成している項目は、到達目標を上げる。

2の項目 ⇒ 70%      5の項目 ⇒ 75%      7の項目 ⇒ 65%

## (2) 生活自己評価アンケート

令和6年度12月に行った生徒生活アンケートの結果

「はい」の回答目標

質問項目	到達目標	R6年度12月の結果			
1 普段の家庭学習時間は、1時間未満である。	40%以下	1年 44.8%	2年 34.5%	3年 7.1%	8組 63.0%
2 学校で落ち着いて安心して生活できている。	60%	1年 63.9%	2年 66.7%	3年 70.1%	8組 64.7%
3 他者と協力し、達成感を味わえる体験ができた。	60%	1年 50.6%	2年 63.8%	3年 71.6%	8組 61.8%
4 行事、学級活動を通して、思いやりのある行動がとれた。	60%	1年 65.1%	2年 75.4%	3年 74.6%	8組 70.6%
5 学んだことを生活に活かすことができた。	50%	1年 49.1%	2年 59.4%	3年 58.2%	8組 52.9%
6 自分の得意なこと、好きなことを見つけ、伸ばすことができた。	70%	1年 60.2%	2年 72.5%	3年 65.7%	8組 73.5%
7 将来の生き方や進路について、自ら進んで考えた。	70%	1年 58.0%	2年 73.1%	3年 73.1%	8組 64.7%

### 【検証】

#### ○成果

・1の項目である、1時間未満である生徒の割合は、7月時より学校全体で12.3%減少し、家庭学習の習慣がついてきた生徒が増えた。3年生の受験勉強、2年生の充実した進路学習による意欲の向上が大きな成果につながった。(7月時:1年 41.6% 2年 53.9% 3年 35.0% 8組 71.0%)

・3の項目については、学校全体の「どちらかといえばはい」という肯定的な回答を合わせた数値は95.3%となり、行事の取り組みや日々の学校生活の中で、多くの生徒が達成感のある体験を味わうことができていた。

(1年 94.6% 2年 92.8% 3年 95.5% 8組 88.3%)

・4の項目では、「どちらかといえばはい」という肯定的な回答を合わせると1~3年生は100%となり、全校生徒が思いやりのある行動がとれたと感じている。ふれあい月間での生徒会が中心となった生徒主導の取り組みや日々の学級指導の成果と捉えている。

・7の項目では、2~3年生が肯定的な回答を合わせると、100%となった。中学校卒業後の進路を具体的に考えられるような進路学習や進路面談の成果であると捉えている。

#### ○課題

・5の項目は、他の項目に比べ「はい」の回答が少なかった。安全指導や食育は、命や健やかな生活に関わることなので、実生活に活かせる指導となるような工夫が必要である。

・さらに「はい」のみの達成率が上がるように、日々の教育活動の充実を推進していく。